

廃木材、廃プラスチックを再利用し木質素材に [秋田県・大館市]

情報収集官署名：東北農政局 鷹巣統計・情報センター
☎ 0186-62-0158

[取組主体]

名 称 秋田ウッド株式会社

取組の範囲 秋田県北部

開 始 年 度 平成 15 年度

[補助事業]

交 付 主 体 国、県

補 助 事 業 名 資源リサイクル産業施設整備補助事業

計 画 名 廃プラスチック利用新建材製造事業

1 取組目的と概要

(目的)

使用済みの木材や廃プラスチックを再利用して、木質の新しい素材を製造し、有効活用して資源循環型社会の構築を目指す。

(概要)

秋田ウッド（株）は、平成 15 年 12 月から木材・木製品製造業から排出される廃木材や木質建築廃材（最大約 1,350 t/年）と、地域（県北部）の誘致企業から排出される廃プラスチック（最大約 1,000 t/年）を原料として、従来の木材より耐水性や耐候性が優れた新建材『AO - ウッド 2』を製造（最大製造能力 2,500 t/年）する施設を試験稼働している。

同施設では、搬入された廃木材を破碎工程により、300 ミクロンまで粉碎し、廃プラスチックは 3 ミリまで粉碎する。粉碎した木粉 55 %、プラスチック粉 45 % の割合に添加剤を加え、4 ミリ程の粒のペレットにし、熱を加えて溶かし、金型で押し出して成型加工している。用途は主にベンチやデッキ、床などのエクステリア部材を製造している。また、製品自体のリサイクルも可能で繰り返し資源として再利用・加工できる。

2 取組の効果

(効果)

木材・木製品製造業、建築業などからの廃木材やおがくずなどの木質原料や地域企業から発生する廃プラスチックを廃棄処分せず有効に再利用できるため、廃棄処分量の減少に貢献している。また、『AO - ウッド 2』製造工程で生じる廃棄物も製品と同じく繰り返し何度も資源として活用できるので、新たな廃棄物を生じないため、資源循環型社会の構築に貢献できる。

3 現在の課題と今後の展開方向

(課題)

公共事業関係の受注が中心のため、一般住宅向けにも販路を拡大することが必要である。

(展開方向)

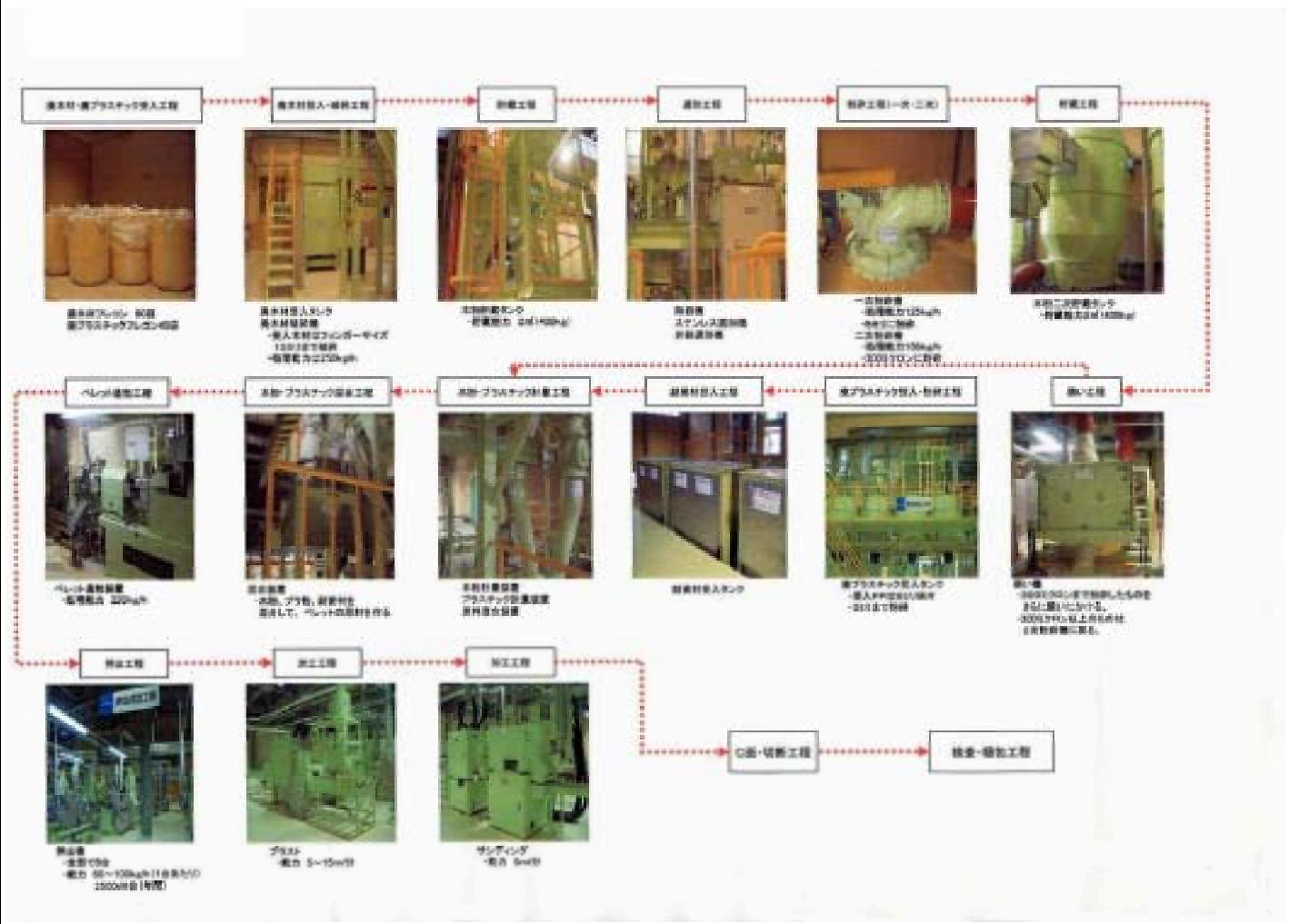
一般住宅向けにも供給できる窓のサッシなど、需要に応じた多様な製品を増やしていきたい。地域住民、企業の理解・協力を得ながら、環境に優しい製品を提供して、地域の資源循環型社会の形成に貢献していきたい。

「廃木材、廃プラスチックを再利用し木質素材に」の施設概要

施設名称	廃プラスチック利用新材製造施設	設置主体	秋田ウッド株式会社
運営主体	秋田ウッド株式会社	施設整備費	1,550,000千円
主な設備	粉碎設備：粉碎機3台、篩い機等 造粒設備：ペレット造粒装置 成型設備：押出機、サンディング	稼働状況	1日の稼働時間：24時間 年間の稼働日数：約270日

【施設のシステムフロー】

(提供：秋田ウッド(株))



バイオマスの回収と再利用の流れ

バイオマス名	発生源	距離	発生量	収集・運搬方法	施設処理能力
廃木材	木材製造業、建築業者等	12km	約1,350 t /年	業者が車両で搬入	2,500 t /年
廃プラスチック	地域企業	20km	約1,000 t /年	業者が車両で搬入	
再生バイオマス名	生産量	再生バイオマスの利活用先			
A0 - ウッド2	2,500 t /年	ベンチやデッキ、床など			